

2025（令和7）年度 学校経営方針

伊賀市立青山小学校

1 はじめに

○地域・保護者とつながり、信頼される学校に

公立学校の存在意義は、地域や保護者とつながり、子どもたちに充実した教育を行うことです。そのことが、地域や保護者から信頼を得ることにつながり、「地域の学校」として存在できるのだと考えます。

○子どもたちが、心から「学校は楽しい」と思える学校に

充実した教育とは、子ども一人ひとりが、学校へ行く意義を理解し、元気に登校してくることから始まり、「学校は楽しい」「学ぶことは楽しい」と心から思えるような充実した生活を送ることができることだと思います。このような教育を行うために、私たち教職員は、チームとして活動し、助け合い、学び合い、育ち合うという関係を「対話」を軸にして築き、子どもたちや教職員が高まり合う学校にしていきます。そのためには「学校教育目標」「学年、学級の目標」を具現化していく取組を重ねていきます。

○教職員にとって充実感のある、居心地のよい学校に

私たちは、充実した教育を行う中で、教職員一人ひとりが教育に携わる者として生きがいを持ち、保護者や地域とともに協働していくことを大事にします。そして、経験豊かなリーダーのもと次世代を担う若い教職員が育ち、すべての教職員が充実感をもつことにつなげていきます。ビジョンを共有し合い、子どもたちにとっても、教職員にとっても居心地のよい学校にしていきます。

2 学校教育目標

確かな学力と豊かな心を持ち、

「なかま」とつながり、夢に向かってたくましく実践する子どもを育てる

3 めざす子ども像

- ・「なかま」とともに学び合う子
（「よく聴いて」「じっくり考え」「わかりやすく伝える」子どもに）
- ・自分も「なかま」も大事にする子
（互いのことを知り合い、「よさ」や「ちがい」を認め合える子どもに）
- ・夢や目標に向かってたくましく実践する子
（「あいさつ」「返事」からはじめ、夢や目標に向け努力する子どもに）
- ・「青山が好き」と言える子
（青山の素敵なところを語れる子どもに）

4 めざす教職員像

- ・子どものくらしに寄り添える教職員
- ・情熱とやりがいをもって、学び続ける教職員
- ・互いに尊敬し信頼し合い、一致団結して取り組む教職員

チーム青山小

5 具体的な取組

（1）「なかま」とともに学び合う学校に（学習指導の充実）

【よく聴いて、じっくり考え、分かりやすく伝える】

- ・指導者が授業改善を図りながら授業力を高め、子どもたちが「わかった」「できた」と思える授業づくりに努めることにより、学力向上を図ります。
- ・「聴く」「考える」「伝える」ことを大事にし、ICT機器を有効に活用して「主体的・対話的で深い学び」「協働的な学び」をつくり出します。
- ・総合的な学習の時間や生活科を中心に、子どもが自ら課題を見つけ、課題解決に向

けて主体的に学び続ける、探究の学習方法を積極的に取り入れます。

- ・英語科において、中学校と連携して「CAN-DOリスト」を作成し、5領域全てにおいて力を伸ばせるよう専門性の高い授業を展開することで、「英語で表現したい（話す・書く）」と思える子どもを育てます。
- ・学校図書館の「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての3つの機能を充実させ、各教科における学習や児童の自主的な読書活動を保護者・地域と連携して推進し、確かな学力と豊かな心を育成します。
- ・基礎学力の定着と主体的な学びの促進のため、「家庭学習強化週間（家庭学習チェックカード）」の取組や「青山小版家庭学習の手引き」を保護者と共有し、連携して家庭学習を充実させます。
- ・全国学力・学習状況調査やみえスタディチェック等の結果から、子どもたちの学力の状況を把握し、指導改善に生かします。

（2）自分も「なかま」も大切に作る学校に（人権・同和教育、平和教育の充実）

【わたし（ぼく）って、なかなかええやん。あんたもなかなかやりますな。】

- ・子ども一人ひとりや集団の実態、生活背景を把握し、系統的・日常的に子どもに寄り添った取組をすすめます。
- ・子どもが、自分に誇りや自信をもつことのできるよう指導を工夫し、一人ひとりを大切にし、それぞれのちがいを認め合い、高まり合う集団を育てます。
- ・全教職員で、特別な支援を必要とする子どもや貧困により生活が困窮している子ども、外国につながるのある子ども等が居心地良くいきいきと学校生活を送れるよう支援していきます。
- ・同和教育や歴史的事実に対する正しい認識を身につけさせるとともに、「差別をしない、許さない」人間の育成をめざす人権・同和教育を推進し、部落差別をはじめとするあらゆる差別をなくす主体者を育てます。
- ・教科横断的に平和教育に取り組み、最大の人権侵害である「戦争」について考え、「自他の命を大切にする」子どもを育てます。
- ・三重県手話条例に基づいて手話について学び、豊かにつながり合おうとする子どもを育てます。
- ・「学習発表会」を人権学習の発表の場として位置づけ、家庭・地域に発信し、人権意識の高揚を図ります。
- ・教職員自らが絶えず人権意識を高めるとともに、差別解消を自らの課題として、信念と情熱をもって取り組みます。

（3）夢や目標に向かってたくましく実践する学校に（キャリア教育や特別活動、総合的な学習の時間等の充実）

【気持ちよく「あいさつ」「返事」「ありがとう」】

- ・子どもが「将来なりたい自分像」をもち、社会人、職業人として自立していけるよう、地域の方や地域の企業と連携し、子どもが夢や目標までの道筋と課題を明らかにしながら努力を続けるキャリア教育を推進します。
- ・「伊賀のこと」等を活用して、「伊賀市が好き」「青山が好き」と言える子どもの育成に向け、地域学習に取り組みます。
- ・誰に対しても自ら明るくあいさつや返事をする、「ありがとう。」と気持ちよくお礼が言える、時間を守る、集団で静かに移動する、身の回りの物を整理整頓するなど、基本的な生活習慣を身につけさせるとともに、言葉遣いなどに気をつけながら人との関わりを大切にする気持ちと行動力を育てます。
- ・学校行事、児童会行事、学級活動、委員会活動等の特別活動において、子ども自身が目的意識をもち主体的に活動できるよう指導を工夫し、子どもが「やってよかった。」と思え、自身の成長を実感できる活動を展開します。

（4）安心・安全で元気に活動する学校に（健康・安全・体力の増進）

- ・子どもの健康状況、食環境及び体力の状況を把握し、安全や健康に対する基礎的事項の習慣化と体力の増進を図ります。
- ・保健指導や安全教育などの充実に努め、自他の生命と健康を大切にする子どもを育

成します。

- ・「給食試食会」や「いがスマイル給食」等の機会をとおして、食の大切さ（いのちをいただき、いのちをつくる）や食の充実等について学ぶ機会をつくります。
- ・子どもたちが安全に登下校できるように、保護者や地域住民、関係機関等と連携しながら取り組みます。
- ・教育活動が安全に行えるよう計画立案と準備に万全を期します。
- ・「青山小学校の約束」を守るなど、きまりを守り、一人ひとりが安全に気をつけて生活できるよう児童会が中心となって主体的に取り組みます。
- ・清掃活動を通して学校をきれいにしようとする気持ちを高め、清潔で気持ちのよい教育環境の保持に努めます。

（６）地域・保護者とともに創る学校に（家庭・地域との協働）

- ・PTA活動を推進するとともに、保護者・地域の教育力を積極的に学校教育に活かします。
- ・学校・学年・学級から保護者・地域への情報発信を積極的に行います。
- ・子どもや保護者による学校評価アンケート結果や、学校運営協議会等の意見を取り入れ、学校改善に努めます。

（７）教職員がコンプライアンスを徹底するとともに元気で活力あふれる学校に（コンプライアンスの徹底、総勤務時間の縮減、教職員の健康）

- ・コンプライアンス・ミーティングを定期的の実施し、意識の高揚と徹底を図る。
- ・学校安全衛生委員会を定期的開催し、総勤務時間の縮減及び教職員の健康保持等について協議を行い、具体的な行動につなげます。
- ・過重労働や総勤務時間縮減に向け、行事や会議等の精選を行うとともに、会議時間の設定・短縮等に取り組みます。
- ・重点目標を定め、実現に向け取り組む。

①コンプライアンス・ミーティングを学期に１回実施し、教職員相互の意識の高揚と徹底を図ります。

☆教育公務員としての自覚と規範意識を持ち、法令等の遵守を徹底しているという教職員の割合・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１００％

②毎週水曜日を定時退校日、月１回学校独自のスーパー定時退校日とし、速やかに勤務を終え、自らの健康維持増進に努めます。

③教職員一人ひとりが退校時刻を設定し、見通しをもって勤務を行うとともに、それぞれの設定退校時刻が見える化することで、相互に声をかけ合い実行性を高めます。

☆一人当たりの月平均時間外労働・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３０時間以下

☆年３６０時間を超える時間外労働者数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・０人

☆月４５時間を超える時間外労働者の延べ人数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・０人

④夏季休暇や週休日の振替を完全取得するとともに、年休等についても、教職員が協力し合うことで、取りやすい体制をつくります。

☆一人当たりの年間休暇取得日数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５日以上

⑤会議等は、電子データの閲覧による協議、資料の事前配付、事項ごとに提案・協議時間の設定等に取り組み、協議時間の短縮を図ります。

☆放課後に開催して６０分以内に終了した会議の割合・・・・・・・・・・・・・６５％以上